

No. 891

伝統に生きる

—岐 阜—

手軽な化学染料の発達によって、これまで続いてきた伝統手法の染め物は時代の流れに消えようとしています。古い城下町・郡上八幡には創業以来400年も続いて「郡上本染め」の伝統を守っている人がいます。

14代渡辺庄吉さん(35)がその人、モチ米のノリで白布に輪かくを描き植物染料や大豆汁を溶かした顔料などでノレンや印ばんでんなどを染めあげていく郷土色豊かな民芸染色の美しさは、町の無形文化財にも指定されました。

アイなど植物染料を使う昔ながらの手染め民芸を守り育てようと、渡辺さんは今日も寒風の中で自慢の「コイのぼり」作りに励んでいます。

笠谷、初の金メダル

—プレ五輪—

快晴の2月7日、札幌国際冬季スポーツ大会は、皇太子御夫妻をお迎えしてはなやかに開幕。開会式終了後、恵庭岳滑降コースで、女子滑降が開始され早くも熱戦の火ぶたがきられました。女子滑降は、フランスのベテラン、ファモーズ選手が優勝、日本の南雲美津代選手は十一位に終わりました。翌第2日、日本期待の70m級純ジャンプには、今シーズン不敗の笠谷幸生選手が出場。一本目最長不倒距離84.5mをマーク、二本目も83mを飛び、追いつがるジェグラノフ(ソ連)、ウォルフ(東ドイツ)等、外国の強豪をおさえて優勝、今大会初の金メダルを日本にもたらしめました。

(昭和46年2月12日 封切)